

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM11C01 声楽実技研究 I	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	前期	※				ABD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
歌唱の基本である身体の使い方や呼吸法を理解し、豊かな響きのある声で各自に応じた楽曲が演奏できる。*実技試験は3分以上5分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	レッスンの概要説明 歌う姿勢・マナーの指導	シラバスを読み 授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲 2 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	2	各自課題曲 1 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指に留意した歌唱練習をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲 3 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	3	各自課題曲 1 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲 3 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する		
授業の概要	4	各自課題曲 1 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲 3 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する		
	5	各自課題曲 1 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲 3 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	6	各自課題曲 2 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指に留意した歌唱練習をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しよう表現したいかをまとめる		
	7	各自課題曲 2 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる		
8	各自課題曲 2 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修						
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定	成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等			実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
VM11C02 声楽実技研究 II	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	後期	※				ABD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
歌唱の基本である身体の使い方や呼吸法を身につけ、正確な発音と豊かな響きのある声で各自に応じた楽曲が演奏できる。*実技試験は3分以上5分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み 授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲 5 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	2	各自課題曲 4 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指に留意した歌唱練習をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲 6 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	3	各自課題曲 4 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲 6 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する		
授業の概要	4	各自課題曲 4 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲 6 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する		
	5	各自課題曲 4 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲 6 (仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	6	各自課題曲 5 (発声法・呼吸法)	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指に留意した歌唱練習をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しよう表現したいかをまとめる		
	7	各自課題曲 5 (発音・言葉と旋律)	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる		
8	各自課題曲 5 (歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修						
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定	成績 評価 基準	評価方法		割合 (%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等			実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS1M1C09 器楽実技研究Ⅰ（ピアノ）	松崎 侑子・川口 みさき 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				ABD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>楽曲の様式を理解しながら、確かな技術と表現力を養うことを目的とする。専門的な知識、態度を兼ね備えられる。</p> <p>授業の概要</p> <p>基礎的な技術の確立と向上をはかりながら、エチュード及びバロックの作品を修得する。 ・エチュード（クラマー・ビュロー・クレメンティ、ツェルニー50番、モシュコフスキー等） ・J.S.バッハ（インヴェンション・シンフォニア・平均律等）</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の学習計画を立てる。ピアノの基礎であるスケールを全調マスターする。	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める	9	バロックの作品を学ぶ③ 奏法を中心に学修する	多声音楽について調べる	各声部の弾き分け		
	2	基礎技能の訓練① スケールとアルペジオ全調をマスターする。	スケール・アルペジオの訓練	不得意な調の克服	10	前期課題曲へのアプローチ法を探る	各自の課題曲を練習	読譜の徹底		
	3	基礎技能の訓練② エチュード（クラマー・ビュロー・ツェルニー50番等） 進度に合った楽曲を選ぶ	練習曲集の中から選択して弾いてみる	曲目を決定後、練習する	11	課題曲を学ぶ① 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の時代様式を調べる	指示された事柄について練習を進める		
	4	エチュードの作品を学ぶ① 奏法を中心に行う	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	12	課題曲を学ぶ② 試験曲の形式・和声を中心に学修する	曲の形式を調べる	形式に基づいた練習		
	5	エチュードの作品を学ぶ② 打鍵法と運指法を中心に学ぶ	楽譜の指使いを中心に学ぶ	正しい運指を身に着ける	13	課題曲を学ぶ③ 強弱法・奏法を中心に学修する	音の強弱に注目して練習する	強弱法に基づいた練習		
	6	エチュードの作品を学ぶ③ 和声を中心に楽曲分析	自分で分析してレッスンに臨む	和声感を身に着ける	14	課題曲の完成度を高める① 発表のための奏法の完成	奏法を学ぶ	指示された事柄について練習を進める		
	7	バロックの作品を学ぶ① バロック音楽の作曲技法、構成を研究し技術の向上をはかる	バロック音楽について調べる	バロック音楽の時代背景を学ぶ	15	課題曲の完成度を高める② 発表のための表現法・強弱・音色の完成	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
	8	バロックの作品を学ぶ② 時代背景・様式を中心に学修する	バロック様式の特徴を調べる	バロック音楽の時代様式を学ぶ	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が、推薦・指定する楽譜、各個人に合わせた楽曲を選択する			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				実技試験は複数の教員で採点する	100%	課題曲の完成度				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS1M1C10 器楽実技研究Ⅱ（ピアノ）	松崎 侑子・川口 みさき 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				ABD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>楽曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を兼ね備えられている。</p> <p>授業の概要</p> <p>古典派の作曲家の作品を習得する。ハイドゥン・モーツァルト・ベートーヴェン等のソナタを学ぶことにより、ソナタ形式を理解する。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	学習計画を立てる	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ		
	2	古典派の楽曲を学ぶ① 時代背景・様式を中心に学修する	古典派の音楽について調べる	古典派の時代背景を復習する	10	課題曲を分析する④ 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底		
	3	古典派の楽曲を学ぶ② 形式・和声を中心に学修する	ソナタ形式を調べる	ソナタ形式を踏まえた練習	11	課題曲を分析する⑤ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求		
	4	古典派の楽曲を学ぶ③ 奏法を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
	5	課題曲の読譜① 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の時代背景を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和		
	6	課題曲の読譜② 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	ソナタ形式の分析	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める		
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	古典派の奏法作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に楽曲分析をする	和声を調べる	転調を意識して練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS1M1C09 器楽実技研究Ⅰ(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>基本的には演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めていくことができる。</p> <p>1年次では、今後の演奏活動等に実践および応用していく上で最も重要な「基礎力」を特に重視する。しっかりと土台を構築していくための方法を教授していく内容とする。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション(前期計画の確認他)	シラバスにて事前に確認	授業後にその学修内容の復習	9	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲の音楽表現法 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習		
	2	導入(基礎練習に対しての準備と心構え)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	10	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習		
	3	呼吸法(正しい方法で基礎練習を行うための事前準備)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	11	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習		
	4	基礎練習(ウォーミングアップの正しいやり方)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	12	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習		
	5	エチュード課題の設定(各担当者が指定したエチュード)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
	6	実技試験用ソロ曲の選定	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	反省を基に伴奏合わせをする		
	8	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の難所への対処法 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					前期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
PS1M1C10 器楽実技研究Ⅱ(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>基本的には演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めていくことができる。更に後期は前期で培ったものを活かし、レベルアップを目指すものとする。</p> <p>1年次では、今後の演奏活動等に実践および応用していく上で最も重要な「基礎力」を特に重視する。しっかりと土台を構築していくための方法を教授していく内容とする。後期はエチュードの内容が少しずつ難しくなってくるので、更なるレベルアップを図る。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の反省と後期の展望について 他	前期の反省と後期の展望を考慮しておく	学修内容の確認と復習	9	エチュードおよびソロ曲⑦(エチュード課題後、ソロ曲の音楽表現法 他)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習		
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考慮しておく	学修内容の確認と復習	10	エチュードおよびソロ曲⑧(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習		
	3	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習	11	エチュードおよびソロ曲⑨(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習		
	4	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習	12	エチュードおよびソロ曲⑩(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習		
	5	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
	6	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	実技試験の総括と反省		
	8	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲の難所への対処法 他)	研究および練習をする	学修内容の確認と復習	備考 ※管弦打楽コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CRIM117 創作応用演習Ⅰ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				ABC
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽を経験する。作曲と編曲を実践し、創作を通じて自己表現を行う基礎を理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 学修内容の説明。課題の目標と取り組み方について。創作、和声、コーラル、コード進行法、鑑賞	自作品の創作、シラバスの熟読	課題の練習、演習、鑑賞	9	コーラルのアナリーゼと初見演奏について②	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	2	和音とコードネーム①(音名、和音名、音階、コードネーム)	課題実習・鑑賞(レポート作成)	課題復習	10	モチーフ作曲(ピアノ曲2部形式)	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	3	和音とコードネーム②(コード、和音の機能)	課題実習・鑑賞(レポート作成)	課題復習	11	モチーフ作曲(ピアノ曲3部形式)	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	4	コード進行・和声実習①(3和音)	課題実習・鑑賞(レポート作成)	課題復習	12	自作曲のレッスンと記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	5	コード進行・和声実習②(3和音)	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	13	自作曲のレッスンと記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	6	コード進行・和声実習①(副3和音)	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	14	自作曲のレッスンと記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	7	コード進行・和声実習②(副3和音)	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	15	創作応用演習Ⅰのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習		
	8	コーラルのアナリーゼと初見演奏について①	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習						
教科書・テキスト等	和声Ⅰ理論と実習(音楽之友社)、新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ)、コーラル名曲集(全音)(全音楽譜出版社)、エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1・2(ヤマハ)(ヤマハ)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					定期試験 課題/レポート 平常点	80% 10% 10%	筆記試験、実技試験、作品提出 鑑賞レポート(週3曲以上) 積極的な作品発表等の取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CRIM118 創作応用演習Ⅱ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				ABC
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽を経験する。作曲と編曲を実践し、創作を通じて自己表現を行う基礎を理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	創作応用演習Ⅱの学修内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、創作応用演習Ⅰ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞	9	コード進行(経過和音・□aug)・和声実習(ドミナントの総括)①	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	2	コード進行・和声実習(創作応用Ⅰの復習)	課題実習・鑑賞(レポート作成)	課題復習	10	コード進行(経過和音・□dim)・和声実習(ドミナントの総括)②	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	3	コード進行(副属7)・和声実習(属7→I)①	課題実習・鑑賞(レポート作成)	課題復習	11	コード進行(経過和音・□m)・和声実習(ドミナントの総括)③	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	4	コード進行(副属7)・和声実習(属7→VI)②	課題実習・鑑賞(レポート作成)	課題復習	12	自作曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	5	コード進行(副属7)・和声実習(属7長調・短調)①	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	13	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	6	コード進行(副属7)・和声実習(属7根音省略形)②	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	14	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習		
	7	ファンファーレについて(既成曲の分析) スコアとパート譜、移調楽器について	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習	15	創作応用演習Ⅱのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習		
	8	ファンファーレ制作	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリーゼ	課題復習						
教科書・テキスト等	和声Ⅰ理論と実習(音楽之友社)、新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ)、コーラル名曲集(全音)(全音楽譜出版社)、エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1・2(ヤマハ)(ヤマハ)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					定期試験 課題/レポート 平常点	80% 10% 10%	筆記試験、実技試験、作品提出 鑑賞レポート(週3曲以上) 積極的な作品発表等の取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅰ（電子キーボード）	出田 敬三・脇山 純・中村 真貴他	複数	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				ABCD
授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画								
電子オルガンの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 前期の授業計画 各学生の目標・課題 基礎知識の確認	シラバス確認	課題の習得・練習	9	ラインハルト曲1（分析） スケール・カデンツ、試験曲②アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	2	ラインハルト（3度の重音奏法）、スケール、楽曲演奏1①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	10	ラインハルト曲2（読譜）スケール・カデンツ、試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	3	ラインハルト（6度の重音奏法）、スケール、楽曲演奏1②テクニク的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	11	ラインハルト曲2（レジスト）スケール・カデンツ、試験曲④アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏（テクニク面の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	4	ラインハルト（レガート奏法）、スケール、楽曲演奏1③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	12	ラインハルト曲2（分析）スケール・カデンツ、試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色・演奏（テクニク面の克服）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
授業の概要										
専攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。ラインハルト、テクニク、即興、モチーフ、ポピュラーからクラシック、オリジナル、既成の曲、編曲、楽器の機能、レジストレーション、リズムと内容が多岐にわたる。	5	ラインハルト（親指のグリッサンドレガート奏法）、スケール、楽曲演奏2③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	13	ラインハルト曲3（読譜）スケール・カデンツ、試験曲⑥音色・演奏表現の向上（音色に伴う演奏法の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	6	ラインハルト（各指のグリッサンドレガート奏法）、スケール、楽曲演奏2②テクニク的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	14	ラインハルト曲3（レジスト）スケール・カデンツ、試験曲⑦音色・演奏表現の向上（双方から演奏をまとめる）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	7	ラインハルト曲1（読譜）、スケール、楽曲演奏2③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	15	ラインハルト曲3（分析）スケール・カデンツ、試験曲⑧試験曲の全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験課題の練習	実技試験の準備		
	8	ラインハルト曲1（レジスト）、スケール・カデンツ、試験曲①アレンジ・大まかな音色を入力	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く						
教科書・テキスト等	ラインハルトオルガン教本50番（音楽之友社）、新総合音楽講座5「コード進行法」（ヤマハミュージックメディア）、エレク トーンメロディーズベストセレクションVol.1（改訂版）（ヤマハミュージックメディア）、その他、楽譜等をレッスン時に指定	成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント					
参考書・参考資料等	エレク トーンメロディーズベストセレクションVol.2（ヤマハミュージックメディア）		実技試験 課題 / レポート	80% 10%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ 課題を習得・練習					
			平常点（態度）演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅱ（電子キーボード）	出田 敬三・脇山 純・中村 真貴他	複数	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				ABCD
授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画								
電子オルガンの演奏技術、表現力を高めていくとともに、多様なジャンルの様々な作品を数多く経験していく中で、アイデンティティをもった自分自身の音楽表現を追求し、音楽を通して人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 後期の授業計画 各学生の目標・課題 基礎知識の確認	シラバス確認	課題の習得・練習	9	ラインハルト曲6（レジスト）、パイプオルガンの演奏（トゥ&ヒール奏法）即興、モチーフ、試験曲②アレンジ・音色を細かく設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	2	ラインハルト曲4（読譜）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏1①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	10	ラインハルト曲6（分析）、パイプオルガンの演奏、即興、モチーフ、試験曲③アレンジ・エフェクトなど細部の設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	3	ラインハルト曲4（レジスト）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏1②テクニク的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	11	ラインハルト曲7（レジスト）パイプオルガンの演奏、即興、モチーフ、試験曲④アレンジ仕上げ・音色のツメ・演奏（テクニク面の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	4	ラインハルト曲4（分析）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏1③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	12	ラインハルト曲7（分析）、パイプオルガンの演奏、試験曲⑤アレンジ仕上げ・音色・演奏（テクニク面の克服）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
授業の概要										
専攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。ラインハルト、テクニク、即興、モチーフ、ポピュラーからクラシック、オリジナル、既成の曲、編曲、楽器の機能、レジストレーション、リズムと内容が多岐にわたる。	5	ラインハルト曲5（読譜）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏2①譜読みと簡単な音色設定	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	13	ラインハルト曲7（読譜）パイプオルガンの演奏、試験曲⑥音色・演奏表現の向上（音色に伴う演奏法の確認）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	6	ラインハルト曲5（レジスト）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏2②テクニク的な問題の克服	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	14	ラインハルト試験曲のまとめ、パイプオルガンの演奏、即興、モチーフ、試験曲⑦音色・演奏表現の向上（双方から演奏をまとめる）	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	7	ラインハルト曲5（分析）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、楽曲演奏2③サウンドと演奏のまとめ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	15	ラインハルト試験曲のまとめ、パイプオルガンの演奏、即興、モチーフ、試験曲⑧試験曲の全体的な仕上げ、楽譜の確認	試験課題の練習	実技試験の準備		
	8	ラインハルト曲6（読譜）、即興（イントロ、エンディング）、モチーフ、試験曲①アレンジ・大まかな音色を入力	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く						
教科書・テキスト等	ラインハルトオルガン教本50番（音楽之友社）、新総合音楽講座5「コード進行法」（ヤマハミュージックメディア）、エレク トーンメロディーズベストセレクションVol.1（改訂版）（ヤマハミュージックメディア）、その他、楽譜等をレッスン時に指定	成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント					
参考書・参考資料等	エレク トーンメロディーズベストセレクションVol.2（ヤマハミュージックメディア）		実技試験 課題 / レポート	80% 10%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ 課題を習得・練習					
			平常点（態度）演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CRIM117 創作応用演習Ⅰ (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				ABC
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。 II 現代のニーズにあった演奏感覚を身につける。 III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	入学前の課題	課題①練習・基礎練習	9	課題③への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習		
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習	10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現(音響・サウンド)について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習		
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習		
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題①練習・基礎練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習		
	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習		
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習		
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題②練習・基礎練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅰのまとめ Ⅱの準備		
授業の概要										
個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく。	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習		
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習		
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題②練習・基礎練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅰのまとめ Ⅱの準備		
	8	課題③への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題③背景について	課題③練習・基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
				実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力				
				平常点	10%	事前・事後学習への取り組み				
				平常点	10%	演奏活動、行事への参加				
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
CRIM118 創作応用演習Ⅱ (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				ABC
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。 II 現代のニーズにあった演奏感覚を身につける。 III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	創作応用演習Ⅱの課題曲選曲	課題①練習・基礎練習	9	課題③への取り組み②分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習		
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景について	課題①練習・基礎練習	10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現(音響・サウンド)について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習		
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎練習	11	後期試験への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習		
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題①練習・基礎練習	12	後期試験への取り組み② 楽曲アナリーゼと構成について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習		
	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習	13	後期試験への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習		
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習	14	後期試験への取り組み④ 表現表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習		
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題②練習・基礎練習	15	後期試験への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅱのまとめ Ⅲの準備		
授業の概要										
個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく。	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題②背景について	課題②練習・基礎練習	13	後期試験への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習		
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎練習	14	後期試験への取り組み④ 表現表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習		
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題②練習・基礎練習	15	後期試験への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅱのまとめ Ⅲの準備		
	8	課題③への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題③背景について	課題③練習・基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
				実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力				
				平常点	10%	事前・事後学習への取り組み				
				平常点	10%	演奏活動、行事への参加				
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD1M1N25 サウンドデザインⅠ	出田 敬三・脇山 純 西田 和政 他	複数	2 単位	音楽学科 1 年次	前期	必修				BCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
「良い音楽」を注意深く聴き、その音楽を再現出来るようになる。色々なポイントから「聴く」ことを学ぶ。 実際のコンサート等のイベントで機材の設置から、音響チェック、リハーサル、本番、後片付けをスタッフとして担当できる能力を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 「音」とは DTMからDAW へ 色々な録音、ミキシング	入学前の課題 シラバスを読んでおくこと	授業で行った操 作を何度も繰り返 す	9	音響 (3) 実習 その1 (機材を使って音を出そう)	前回までの音響 の授業内容を復 習	機材の接続を繰 り返し練習		
	2	ドラムの録音、ドラム譜 Velocity, Edit, Quantize (いろい ろな画面でのEdit)	操作に慣れる ドラムの入った 演奏を聞いておく	ドラム譜とドラ ムの入力に慣れ る	10	ミキシング ミキサー、AUX, Pre, Post、Group、オート メーション	ミキサーの機能 を調べておく	ミキサーを有効 に使えるように 復習		
	3	音響 (1) 音楽の表舞台、裏舞台 (音響について、内容・職業全般につ いて)	音響学、物理学 的な「音」につ いて、調べてお く	授業で話された 内容をまとめる 3の字巻きを習 得	11	テンポ Tempo Change	テンポの揺れる 曲を3曲聞いてお くこと	いろいろなテン ポの変化をさせ る方法を習得		
	4	キーボードの録音 Pedal, PitchBend, Modulation	キーボードの楽 譜を準備しておく	授業の操作に慣 れる	12	音響 (4) 実習 その2 (心地よい音量、音質を 作ってみよう)	前回までの音響 の授業内容を復 習	ミキサー、エ フェクト、ゲイ ン、モニターな どに慣れる		
授業の概要										
DTM・DAWの知識と実践。 様々な楽器についての知識と奏法の 理解。 コンピュータを介して「音楽」の 理解を深める。 音響の基本を知り、PAなどの実践 を体験する。	5	ギターの録音 TAB譜の読み方 試験曲準備 クラシックピアノ作品・ 自由曲	ギターの楽譜を 準備 試験曲を準備	機材の接続 (ギ ター)・録音の 復習 試験曲作成開始	13	Youtube 機材、ソフト (OBS)、準備、配信、録画	ライブストリー ミング配信につ いて調べておく	リアルタイムの 配信の練習		
	6	音響 (2) 音を伝える (建物の構造による音の違い、基本 的な音響機材の説明とノウハウ)	空間系のエフェ クトについて調 べておく	音響機材に触れ て慣れる	14	LOGICでの楽譜 試験曲の楽譜提出 異名同音、臨時記号などのミスをチェック	試験曲の仕上げ 試験曲の楽譜を 準備しておく	授業で指摘され た楽譜の修正 試験曲の修正		
	7	ヴォーカルの録音 録音の音質、マイクロフォンの種類、 Effect	ヴォーカルの楽 譜の準備	機材の接続 (マ イク)・録音の 復習	15	まとめ 試験曲の音源準備	曲を仕上げる、 パウンス直前 の状態データ を持参	曲をパウンスし て提出		
	8	MIDI 2進法、16進法、Control、SMF RPN、NRPN、Exclusive	MIDIについて調 べておく	MIDIの知識を復 習	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付			成績 評価 基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
					実技試験 課題/楽譜	80%	課題曲、自由曲			
					平常点 (態度) 演奏活動	10%	課題の習得・練習			
参考書・参考資料等						10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
SD1M1N26 サウンドデザインⅡ	出田 敬三・脇山 純 西田 和政 他	複数	2 単位	音楽学科 1 年次	後期	必修				BCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
「良い音楽」を注意深く聴き、その音楽を再現出来るようになる。色々なポイントから「聴く」ことを学ぶ。 実際のコンサート等のイベントで機材の設置から、音響チェック、リハーサル、本番、後片付けをスタッフとして担当できる能力を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 前期の復習・確認 色々な録音、ミキシング	課題のデータ作 成	操作を何度も繰 り返し操作のス ピードアップを 図る	9	音響 (3) 「サウンドをデザインす る」③ベートーヴェンホールでの実践 ハウリング対策	前回までの音響 の授業内容を復 習	機材の接続を繰 り返し練習		
	2	短時間での作品制作 時間をかける作業も大事だが、短時間 でまとめる力も必要	初級レベルの曲 を5曲準備	授業中に仕上 らなかつたデー タ作成を続ける	10	MIDIの知識再確認 感覚的に修正できるが、データを数値化 することで客観的に理解する	イベントリスト を見て慣れてお く	数値入力に慣れ る 数字の意味を理 解		
	3	シンセサイザーの基礎 アナログシンセサイザー VCO, VCF, VCA, EG (ADSR) などの基本	LOGICのソフト 音源を種類別に 比較して聴く	様々なソフト音 源で自分の好み にEditする	11	パウンス (オーディオファイルの種類) 2ミックス CDでのバックアップ	パウンスにつ いて調べておく	WAVE, MP3など で保存 CD作成		
授業の概要										
DTM・DAWの知識と実践。 様々な楽器についての知識と奏法の 理解。 コンピュータを介して「音楽」の 理解を深める。 音響の基本を知り、PAなどの実践 を体験する。	4	音響 (1) サウンドをデザインす る」① サウンドデザインスタジオで音響機器 を接続、操作してよい音を出す	機器の接続、名 称、操作、 接続、操作してよい音を出す	実習で学んだこ とを素早く再現 できるようにす る	12	音響 (4) 「サウンドをデザイン する」④実技試験の機材、セッティング モニター	前回までの音響 の授業内容を復 習	ミキサー、エ フェクト、ゲイ ン、モニターな どに慣れる		
	5	ソフト音源、ピンテッジキーボード 多くのパラメーター、オプションの理 解	パラメーターを 変えて音のEDIT に慣れておく	ソフト音源で曲 のイメージにふ さわしい音に Edit	13	様々な音楽ソフト LOGIC以外の音楽ソフトとその特徴	スマートフォンの アプリなども 試しておく	有料、無料のア プリを試す		
	6	プラグインエフェクタ 音にエフェクトをかけることで曲がよ り魅力的になる	エフェクトを大 きく分けてそれ ぞれの働きを調 べる	授業で触ってな いエフェクトを 使ってみる	14	まとめ 試験曲の楽譜を仕上げる	試験曲の楽譜を 準備しておく	授業で指摘され た楽譜の修正と 仕上げ		
	7	音響 (2) 「サウンドをデザインす る」② ミュージックパークで音響機器を接 続、操作してよい音を出す	機器の接続、名 称、操作、 接続、操作してよい音を出す	実習で学んだこ とを素早く再現 できるようにす る	15	総括 試験曲の準備	パウンス直前 の状態データ をもってくる	曲を仕上げ、パ ウンスして提出		
	8	外部音源 (INTEGRA7) 接続 初めての外部音源 ソフト音源との操作の違いを学ぶ	INTEGRA7のマ ニュアルを読んで おく	接続、録音方法 に慣れておく	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付			成績 評価 基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
					実技試験 課題/楽譜	80%	課題曲、自由曲			
					平常点 (態度) 演奏活動	10%	課題の習得・練習			
参考書・参考資料等						10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME1M1N33 音楽教育演習 I	岩山 恵美子	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽教育現場における教育活動実践のための基礎的能力を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
歌唱指導の実演・模擬指導や簡易伴奏づくりを通して、歌唱指導についての基礎的な知識や技能を習得するとともに、音楽の諸要素についての理解を深める。	1	オリエンテーション ・演習内容と学修の進め方 ・事前課題の発表	事前課題をまとめ、発表準備と練習をする	シラバス、学生便覧を熟読する	9	模擬指導と意見交換	発声練習のさせ方や伴奏を練習しておく	意見交換の内容をまとめる		
	2	歌唱指導の意義 ・学習指導要領の内容と学年系統	歌唱の指導事項を読んでおく	学年系統を一覧にまとめる	10	模擬授業のリフレクション	模擬授業記録をまとめておく	改善点をまとめる		
	3	歌唱指導の意義 ・求める声 ・模範演奏の分析	お勤めの歌声を探し、そのよさをまとめておく	中学生の演奏を聴き、声についての気づきをまとめる	11	歌唱指導における伴奏の工夫	課題曲を歌い、伴奏を練習しておく	カデンツを全調で弾けるように練習する		
	4	発声メカニズムと変声期の指導	自分の声の成長・変化をまとめておく	変声期の指導の留意点をまとめる	12	根音奏・和音伴奏の工夫 和声とコード	いろいろな和音の構成について調べておく	課題曲の根音奏、和音伴奏をつくる		
授業の概要	5	発声指導のポイントと声のトラブル対処法	発声上のトラブルについて調べておく	発声トラブルの対処法をまとめる	13	伴奏づくり ・選択した歌唱教材にあった簡易伴奏	自作の根音奏、和音伴奏を弾けるように練習しておく	指導場面に応じた伴奏をつくる		
発声メカニズムや発達、さらに歌唱指導の意義を理解し、変声期の生徒に合った指導を構想する。	6	目標をもった発声指導	発声練習の経験をもとめておく	発声指導のポイントをまとめる	14	ノーテーション ・自作の伴奏をパソコンを使って記譜	自作の伴奏を確かめておく	記譜を完成させる		
和声について理解し、歌唱指導に必要な伴奏を工夫し、演奏する。	7	課題(教科書教材)の選択と指導構想	教科書の歌唱教材を歌っておく	選んだ教材曲を歌詞や階名で歌えるように練習しておく	15	弾き歌いと歌唱指導 ・自作の伴奏を弾きながら、範唱し、歌唱指導をする	自作の伴奏を練習しておく	歌唱指導について自分の考えをまとめる		
	8	学習活動と支援の工夫	楽曲との出合わせ方を考えておく	学習活動の流れをまとめる						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽(平成29年)(教育芸術社)、中学生の音楽1、中学生の音楽2・3上、中学生の音楽2・3下(教育芸術社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				レポート		50%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え			
				作品・演奏		30%	内容の深さ、演奏の正確さ			
				毎時間の振り返り		20%	内容についての理解、自分なりの考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ME1M1N34 音楽教育演習 II	岩山 恵美子	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				ABCDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽教育現場での教育活動実践のための基礎的能力を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
器楽指導の意義を読み解くことを通して、求められる授業のあり方を理解することができる。	1	器楽指導の意義 ・学習指導要領改訂の趣旨 ・指導内容と学年系統	器楽の指導事項を読んでおく	学年系統を一覧にまとめる	9	リコーダー曲集をつくらう ・内容構成と選曲	おおまかな内容構成を考えておく	選んだ楽曲を演奏できるように練習する		
器楽教材曲をアレンジすることを通して、読譜力や楽器演奏の基礎的な技能を高めるとともに教材開発について理解を深める。	2	アルトリコーダーの基礎的な奏法 ・呼吸、タンギング、指使い	ソプラノリコーダーの選指を確認しておく	アルトリコーダーの選指を練習する	10	リコーダー曲集をつくらう ・自学ができる工夫	選んだ楽曲を難易度別に分類しておく	自己の学習成果を確認できるような方法を考えまとめる		
	3	リコーダー・アンサンブル ・音色、フレージング	アルトリコーダーの選指を確認しておく	全パートをリコーダーで演奏できるように練習する	11	リコーダー曲集をつくらう ・指導法の工夫	自主的に取り組めるような方法を考えておく	リコーダー曲集を完成させ、製本する		
	4	リコーダー・アンサンブル ・バランス ・テノール・リコーダー ・バス・リコーダー	各パートを演奏できるか確かめる	アンサンブルの練習をする	12	個に応じた指導のあり方(討議) 「なぜ、個に応じた指導が必要か」	授業前に生徒の何が分かっているか、よいかまとめておく	意見交換をもとに自分の考えを見直し、まとめる		
教材曲を生徒の能力に応じて編曲し、アンサンブルを体験する。	5	アンサンブルアレンジ ・コードネーム	コードネームについて調べておく	選択した任意の1曲に合ったコードネームをつける	13	個に応じた指導のあり方(討議) 「生徒の実態把握」	授業前に生徒の何が分かっているか、よいかまとめておく	実態把握の必要性と方法についてまとめる		
個に応じた指導について、テーマに沿った討議を通して、自分の考えをまとめる。	6	器楽教材の工夫 ・不得意感を抱いている生徒への配慮と支援	音楽嫌いの原因について考え、まとめておく	不得意な生徒のためのパートをつくる	14	個に応じた指導のあり方(討議) 「意欲を引き出す工夫」	意欲をもって学習に取り組んだ経験をまとめておく	意欲を引き出す教師の関わりをまとめる		
	7	器楽教材の工夫 ・技能が高い生徒への配慮と支援	つくったパートを演奏できるようにしておく	技能の高い生徒のためのパートをつくる	15	個に応じた指導のあり方(討議) 「居場所のある授業づくり」	「居場所がある」とはどういうことか考えまとめておく	個に応じた指導のあり方についてまとめる		
	8	アレンジ作品の発表(演奏)と意見交換	工夫点をまとめておく	気づきをもとに修正する						
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社)、中学生の器楽(教育芸術社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				レポート		40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え			
				作品・演奏		40%	内容の深さ、演奏の正確さ			
				毎時間の振り返り		20%	内容の理解度、自分なりの考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT1M141 音楽療法演習 I	村橋 和子・青 拓美	オムニバス	2 単位	音楽学科 1 年次	前期	必修			必修	A B C D F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>発達論の諸理論についてまとめる。課題曲の練習。各論では学生が音楽を媒体として高齢者を支える意味を多角的・理論的に説明できることを目的とする。また技法においては、高齢者の心身の健康及び疾病や障がい、加齢に伴う認知機能の変化に対して有効に働きかけるための臨床的音楽技法を身につけることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 授業の進め方、レジュメ作成について理解する 課題発表	シラバスの熟読	課題曲の練習	9	・認知症について理解する ・高齢者領域での楽曲(昭和戦前の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	認知症についてまとめる 課題曲の練習		
	2	・ヒトの発達について ・臨床場面での伴奏法(コードについて)	プリントの熟読、用語の理解	発達についてまとめる 課題曲の練習	10	・認知症と音楽療法との関連を探索 ・高齢者領域の楽曲(戦後の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	認知症と音楽についてまとめる 課題曲の練習		
	3	・様々な発達論 ・臨床場面での伴奏法(課題曲のコード奏)	プリントの熟読、用語の理解	発達論についてまとめる 課題曲の練習	11	・ADLとQOLについて理解する ・高齢者領域の楽曲(昭和30年以降の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	ADLとQOLについてまとめる 課題曲の練習		
	4	・発達と音楽療法との関連を探索 ・臨床場面での伴奏法(高齢者で使用する楽曲の理解)	プリントの熟読、用語の理解	発達と音楽療法についてまとめる 課題曲の練習	12	・回想法を理解し、音楽療法との関連を考える ・高齢者領域の楽曲(平成の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	回想法についてまとめる 課題曲の練習		
	5	・加齢に伴う変化を理解する ・臨床場面での伴奏法(童謡・唱歌)	プリントの熟読、用語の理解	高齢期の障がいについてまとめる 課題曲の練習	13	・高齢者領域の事例研究 ・高齢者領域の楽曲(試験曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	事例についてまとめる 課題曲の練習		
	6	・高齢者の疾病・障がいと音楽療法との関連を探索 ・臨床場面での伴奏法(童謡・唱歌)	プリントの熟読、用語の理解	高齢期の疾病についてまとめる 課題曲の練習	14	音楽療法における声の使い方(時期未定) *青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読し、用語を調べる	レッスンで学んだことをまとめる		
	7	・脳の仕組み、その機能について理解する ・臨床場面での伴奏法(歌謡曲)	プリントの熟読、用語の理解	脳の機能についてまとめる 課題曲の練習	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習		
	8	・脳機能障害について理解する ・高齢者領域での楽曲(大正時代までの背景)	プリントの熟読、用語の理解	脳機能障害についてまとめる 課題曲の練習	備考 ※音楽療法コース必修/青拓美講師による特別講座については、オリエンテーションにて詳細を説明					
教科書・テキスト等	認知症のパーソンドケア(クリエイツかもがわ)、ころをつなぐミュージックセラピー(ミネルヴァ書房)	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント					
参考書・参考資料等	音楽療法の手引き 音楽療法家のための(牧野出版)、音楽療法の実践 音の使い方をめぐって(牧野出版)	平常点(態度・行動観察)	レジュメ作成と発表	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実					
		期末テスト		30%	課題への取り組み、内容の充実					
				60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MT1M142 音楽療法演習 II	村橋 和子・土野 研治	オムニバス	2 単位	音楽学科 1 年次	後期	必修			必修	A B C D F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>Iに引き続き、音楽療法士が音楽を媒体として高齢者を支える意味を多角的・理論的に検討することを目的とする。また技法においては集団に対して有効に働きかけるための臨床的音楽技法(コード奏による弾き歌い、初見力、を身につける。</p> <p>授業の概要</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 授業の進め方、レジュメ作成について理解する。 課題発表	シラバスの熟読	課題曲の練習	9	・来談者中心療法 ・弾き歌い(昭和50年代以降の曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	2	・高齢者の生きた時代と音楽史 ・弾き歌い(明治時代の馴染みの曲)	プリントの熟読、用語の理解	課題のまとめ 課題曲の練習	10	・即興体験 ・弾き歌い(平成時代の名曲①)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	3	・高齢者の生きた時代と音楽史 ・弾き歌い(大正時代の馴染みの曲)	プリントの熟読、用語の理解	課題のまとめ 課題曲の練習	11	・即興体験 ・弾き歌い(平成時代の名曲②)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	4	・エリックソン「ライフサイクル」 ・弾き歌い(戦前の曲)	プリントの熟読、用語の理解	課題のまとめ 課題曲の練習	12	・土野研治客員教授による特別講義(時期未定)	レジュメの熟読	講義のまとめ レポート作成		
	5	・アイデンティティの確立について ・弾き歌い(軍歌)	プリントの熟読、用語の理解	課題のまとめ 課題曲の練習	13	・終末期医療と音楽療法 ・弾き歌い(試験曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	6	・マズローの欲求段階説 ・弾き歌い(昭和20年代の曲)	プリントの熟読、用語の理解	課題のまとめ 課題曲の練習	14	・グリーフ・ケアについて ・弾き歌い(試験曲)	レジュメを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	7	・自己実現・至高体験と音楽療法 ・弾き歌い(昭和30年代の曲)	プリントの熟読、用語の理解	課題のまとめ 課題曲の練習	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問)	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習		
	8	・パーソンセンタード・ケア ・弾き歌い(昭和40年代の曲)	プリントの熟読、用語の理解	課題のまとめ 課題曲の練習	備考 ※音楽療法コース必修 土野研治客員教授の特別講義についてはオリエンテーションにて詳細を説明					
教科書・テキスト等	認知症のパーソンドケア(クリエイツかもがわ)、障害児の音楽療法 声・身体・コミュニケーション(春秋社)	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント					
参考書・参考資料等	音楽療法の手引き 音楽療法家のための(牧野出版) 音楽療法の実践 音の使い方をめぐって(牧野出版)	平常点(態度・行動観察)	レジュメ作成と発表	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実					
		期末テスト		30%	課題への取り組み、内容の充実					
				60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP1M4C01 ピアノⅠ	川口 みさき 他	クラス分け	1単位	音楽学科 1年次	前期	※	必修		選択必修	DE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	前期の学修計画を立てる ピアノの基礎であるスケール・練習曲等を連弾する	シラバスを読み、授業内容を確認する	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲の練習方法/バロック・古典派な技法を中心に	テンポを守り練習する	研究した練習方法をまとめる			
2	ピアノの基礎技術① スケールの連指法を学ぶ	連指に注意し練習する	長調を復習しておく	10	課題曲の構成① 奏法を中心に	音の粒をそろえて練習する	音の質をそろえて練習する			
3	ピアノの基礎技術② 調と指使いのパターンを習得する	課題の調のスケールを練習する	短調を復習しておく	11	課題曲の構成② 強弱の付け方に注意して	楽譜に書かれた強弱をていねいに見直す	表現にメリハリを持たせるよう練習する			
4	ピアノの基礎技術③ スケールおよび練習曲による指の独立	調子記号を覚える	長調・短調を続けて弾けるよう復習しておく	12	課題曲の構成③ 音色を中心に	楽曲にふさわしい音色で表現する	身体の使い方を復習する			
授業の概要										
5	ピアノの基礎技術④ カデンツを習得する	カデンツの指使いを覚える	カデンツ付きのスケールの復習	13	構成・表現の修得①全体の構成を考え強弱を決定する	曲を暗譜で演奏できるようにする	暗譜が不確実な箇所を克服する			
6	前期試験曲を決定し、現在の進度にあった楽曲を選択する	課題となる楽曲を準備する	決定した曲の時代背景を調べる	14	構成・表現の修得②音色を中心に	暗譜で安定した演奏ができるようにする	技術・表現両方を確実に見直す。			
7	課題曲の分析① バロック・古典派など時代背景を中心に	決定した曲を練習する	曲の背景にある様式等をまとめておく	15	構成・表現の完成。後期の課題決め	授業を振り返り総まとめをする	授業で学んだことをまとめる			
8	課題曲の分析② バロック・古典派など形式を中心に	試験曲の形式を調べておく	曲の形式についてまとめておく	備考 ※声楽・管弦打楽・作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修						
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	課題曲の完成度				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NP1M4C02 ピアノⅡ	川口 みさき 他	クラス分け	1単位	音楽学科 1年次	後期	※	必修		選択必修	DE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	スケール・練習曲等を通して、前期に学んだことを振り返る	指示された課題を仕上げておく	指示された事柄について練習を進める	9	試験曲の分析・練習方法③(形式・和声の確立)	和声と表現を結びつけ練習する	ハーモニーと構成を考える			
2	スケール・練習曲等を通して、レガート奏法・スタッカート奏法について学ぶ	レガート、スタッカートの奏法でスケールを準備する	タッチの多様性について復習しておく	10	試験曲の構成・表現の修得①(奏法を中心に)	曲に合った音色で練習する	思い通りの音色で表現できるよう工夫する			
3	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、拍子感について学ぶ	拍子感を大切に練習する	拍子感について復習する	11	試験曲の構成・表現の修得②(奏法の確立)	指・手首・腕等の使い方を考える	表現と奏法の関連性を考察する			
4	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、演奏における姿勢、手の形について	姿勢に留意し練習する	指示された事柄について練習を進める	12	試験曲の構成・表現の修得③(強弱のつけ方を中心に)	楽譜に指示された強弱記号を見直す	強弱を的確に解釈する			
授業の概要										
5	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、身体・腕の使い方について考察する	手首・腕の脱力を意識して練習する	指示された部分を修正する	13	試験曲の構成・表現の修得④(全体の構成を考え強弱を決定する)	流れの中で自然に表現できるように練習する	技術と表現の両立を図る			
6	後期試験曲の決定、タッチについて	試験候補曲の練習をする	指の独立の重要性についてまとめておく	14	試験曲の構成・表現法等の完成①(音色を中心に)	曲に合った音色で練習する	声部間のバランスを見直す			
7	試験曲の分析・練習方法①(時代背景・様式を中心に)	決定した曲について調べる	曲の背景をまとめる	15	試験曲の構成・表現法等の完成②(音色の確立)	暗譜で安定した演奏が出来るよう練習する	学びの総まとめをする			
8	試験曲の分析・練習方法②(形式・和声を中心に)	ハーモニーに留意し練習する	曲の形式について考察する	備考 ※声楽・管弦打楽・作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修						
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	課題曲の完成度				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NV1M4C09 声楽 I	桑原 理恵 他	クラス分け	1 単位	音楽学科 1 年次	前期	必修	必修		選択必修	BE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
呼吸法や発声など声楽の基礎技術についての理解を深める。また、イタリア語の発音の仕方に慣れる。身体を解放して伸びやかな演奏ができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	イタリア歌曲を鑑賞する	9	各自課題曲 2 (歌詞の意味と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
	2	各自課題曲 1 (身体と声の関係)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲 3 (母音の響きと呼吸法)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる		
	3	各自課題曲 1 (声の響き)	身体を解放することを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲 3 (イタリア語の発音と発声)	スムーズな息の流れで歌唱できるように練習する	レッスン内容をまとめる		
	4	各自課題曲 1 (息の流れと身体の支え)	声の響きを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲 3 (言葉と旋律の関係)	息の流れが止まることなく歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる		
授業の概要	5	各自課題曲 1 (発声と発音)	息の流れを意識してイタリア語で歌う練習をする	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ 1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する		
	6	各自課題曲 2 (母音の響き)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ 2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する		
	7	各自課題曲 2 (イタリア語の発音とリズム)	正しい発音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ 3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる		
	8	各自課題曲 2 (イタリア語の響き)	響きのある母音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職課程必修 (声楽コースを除く) ※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目					
教科書・テキスト等	イタリア歌曲集 I (全音楽譜出版社)			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NV1M4C10 声楽 II	桑原 理恵 他	クラス分け	1 単位	音楽学科 1 年次	後期	必修	必修			BE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
呼吸法や発声など声楽の基礎技術についての知識を演奏の中で活かすことができる。イタリア語の発音の仕方に慣れ、母音の響きを大切に歌うことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する	9	各自課題曲 5 (言葉と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
	2	各自課題曲 4 (発音と呼吸法)	課題曲をイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲 6 (歌詞と発語)	発音に気をつけて課題曲を練習する	レッスン内容をまとめる		
	3	各自課題曲 4 (母音の響き)	母音の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲 6 (テンポ・強弱などの表現)	楽譜に書かれている表示記号を表現して歌う	レッスン内容をまとめる		
	4	各自課題曲 4 (言葉と響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲 6 (伴奏と旋律)	伴奏と歌との間わりを理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
授業の概要	5	各自課題曲 4 (旋律の表現)	フレーズのまわりを感じて歌う練習をする	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ 1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する		
声楽 I に引き続き「歌う」ことの基礎となる呼吸、発声を練習曲、イタリア歌曲を通して学ぶ。またイタリア語の発音と古典の節度ある表現法を習得する。レッスンの曲に関しては担当教員の指導に従って決める。*試験曲はイタリア歌曲集より選曲する	6	各自課題曲 5 (イタリア語の発音と母音の響き)	母音の響きに気をつけてイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ 2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する		
	7	各自課題曲 5 (イタリア語と旋律)	イタリア語を旋律に乗せて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ 3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる		
	8	各自課題曲 5 (旋律と呼吸)	フレーズと呼吸の間わりを感じて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職課程必修 (声楽コースを除く) ※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目					
教科書・テキスト等	イタリア歌曲集 I (全音楽譜出版社)			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1C01 合唱 I	菊村 隆史	単独	2 単位	音楽学科・こども学科 1 年次	前期	必修	必修			ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性及可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲 A の実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼吸のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲 A の実習、発語（ディクショ）ンについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲 B の実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲 B の実習、発語（ディクショ）ンについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習①移動動唱法とソルミゼーションその 1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習②移動動唱法とソルミゼーションその 2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガスム等を用いて完全 4 度または完全 5 度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オステイナート、2～3 声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習							
教科書・テキスト等	必要に応じて配布、または個人購入して使用する、詳細は授業時に指示する。	成績 評価 基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント					
			課題演奏 課題 / レポート	50%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察					
			平常点（態度・行動観察）	20%	授業態度、積極的な取り組み					
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1C02 合唱 II	菊村 隆史・桑原 理恵・村橋 和子	複数	2 単位	音楽学科・こども学科 1 年次	後期	必修	必修			ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性及可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第 8 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第 1 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第 9 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第 2 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その 1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第 3 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その 2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第 4 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	リハーサル	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第 5 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	演奏会	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第 6 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	総括と反省	既習事項のまとめと練習	合唱音楽についてまとめる		
8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第 7 曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習							
教科書・テキスト等	必要に応じて配布、または個人購入して使用する、詳細は授業時に指示する。	成績 評価 基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント					
			課題演奏 課題 / レポート	50%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察					
			平常点（態度・行動観察）	20%	授業態度、積極的な取り組み					
参考書・参考資料等										

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4C09 合奏 I	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2 単位	音楽学科 1 年次	前期	必修	必修		選択必修	ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演することと同時に裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（授業計画等）	シラバスを確認	次の授業に備える	9	定期演奏会プログラム①（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	2	基礎合奏 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	定期演奏会プログラム②（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	3	合奏における注意点 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	定期演奏会プログラム③（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	定期演奏会プログラム④（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
授業の概要	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	総リハーサル（本番を想定し、緊張感をもって臨む）	プログラム全曲について、注意すべき点をチェックする	注意や指摘されたところの最終調整と練習		
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする。	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	定期演奏会（これまでの内容を演奏会に活かす）	本番に備えての準備他	本番を終えての反省点をまとめる		
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	総括と反省会	反省点をまとめて準備しておく	前期で学んだことの確認と後期への展望を考える		
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考 ※音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとなる					
教科書・テキスト等	各担当により指示			成績 評価 基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度と積極的姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4C10 合奏 II	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2 単位	音楽学科 1 年次	後期	必修	必修		選択必修	ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養うことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の復習（前期に学んだことの復習および確認）	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える	9	基本的奏法の修得とその応用⑧（各楽器・パートそれぞれの役割について）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	2	基本的奏法の修得とその応用⑨（教材となる曲の発表とその音出し）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	基本的奏法の修得とその応用⑨（様々な楽器の特色と奏法）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	3	基本的奏法の修得とその応用⑩（教材曲の演奏と分析）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	基本的奏法の修得とその応用⑩（音楽的表現における音色の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	4	基本的奏法の修得とその応用⑪（リズム・音程のトレーニング）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	基本的奏法の修得とその応用⑪（更なる表現方法の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
授業の概要	5	基本的奏法の修得とその応用⑫（リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	まとめ①（教材楽曲を通しての確認と応用①）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする。	6	基本的奏法の修得とその応用⑬（独奏では経験できない音楽体験をする）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	まとめ②（教材楽曲を通しての確認と応用②）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習		
	7	基本的奏法の修得とその応用⑭（アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	まとめ③（教材楽曲の発表会〔ミニコンサート〕）	発表会への準備等	授業の総括と反省		
	8	基本的奏法の修得とその応用⑮（合奏というジャンルを幅広く理解する）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考 ※音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単位以上」の中の一つとなる					
教科書・テキスト等	各担当により指示			成績 評価 基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題演奏	30% 70%	授業態度と積極的姿勢 学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC1M3T15 演奏実技 I	実技系教員 (主に管弦打)	クラス分け	1 単位	音楽学科 1 年次	前期	※				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス (年間計画等)	事前に練習しておく	次のレッスンへの準備	9	基礎練習⑤ (スケール [b 系短調])	事前練習	学修内容の復習		
	2	楽器の歴史	事前に調べておく	学修内容の復習	10	基礎練習⑥ (スケール [# 系短調])	事前練習	学修内容の復習		
	3	楽器の特徴と構造	事前に調べておく	学修内容の復習	11	簡単なソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習		
	4	呼吸法	事前に実践しておく	学修内容の復習	12	ソロ曲 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習		
授業の概要	5	基礎練習① (ロングトーン)	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習		
原則として、以前経験したことがある楽器について、専門 (例えば管弦打楽器) に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約 (約30分) 以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。	6	基礎練習② (フィンガリング・リップスラー)	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習		
	7	基礎練習③ (スケール [b 系長調])	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他		
	8	基礎練習④ (スケール [# 系長調])	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				平常点		30%	授業態度・積極的な姿勢			
				演奏		70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
NC2M3T17 演奏実技 II	実技系教員 (主に管弦打)	クラス分け	1 単位	音楽学科 1 年次	後期	※				ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の反省および確認	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習		
	2	エチュードの選定 (内容の説明 他)	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲A-1	事前練習	学修内容の復習		
	3	エチュードA-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲A-2	事前練習	学修内容の復習		
	4	エチュードA-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲A-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習		
授業の概要	5	エチュードA-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲A-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習		
原則として、以前経験したことがある楽器について、専門 (例えば管弦打楽器) に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約 (後30分) 以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。	6	エチュードA-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲A-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習		
	7	エチュードA-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	後期の反省 他		
	8	エチュードA-6	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				平常点		30%	授業態度・積極的な姿勢			
				演奏		70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
リトミックⅠ	隈部 文	単独	1単位	音楽学科・こども学科 1年次	前期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
リトミックを体験することにより、「集中力」「直感力」「記憶力」「創造力」「想像力」など高まり、音や音楽を深く感じられるようになる。リズムの持つエネルギーの違いが表現できる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 基本的な動きと即時反応	シラバスに目を通しておく	エミール＝ジャック ダルクローズについて調べる	9	リズムフレーズ（クラップとステップ）	課題のリズムフレーズをクラップしておく	自分でリズムフレーズを作りクラップやステップをする		
	2	ビート（拍）	配布資料を読み、様々なジャンルの音楽を聴いておく	様々な音楽を聴きながらビートを叩く	10	ポリリズム	課題のリズムをクラップ、ステップしておく	自分で考えたポリリズムをクラップやステップする		
	3	ダイナミクスとテンポ	配布資料を読んでおく	いろいろな速さの音楽を聴きながらビートを叩く	11	曲の形式	提示された曲を聴いておく	いろいろな曲の形式を調べる		
	4	拍子	配布資料を読んでおく	様々な曲を歌いながら拍子をクラップやステップする。	12	ニュアンス	配布資料を読んでおく	自分の好きな曲をいろいろなニュアンスで歌ってみる		
授業の概要	5	アナクルーシス	拍子の復習をしておく	身近な曲からアナクルーシスを探す	13	補足リズム	基礎リズムやリズムパターンをクラップしておく	いろいろな曲を歌いながら補足リズムをクラップする		
感覚を通した反応活動を伴いながら音楽の持つ様々な要素を身体全体で感じていく。常に動きながら音楽を体験し、心と身体の調和を促したり、音楽的センスを培っていく。	6	基礎リズム	基本的なリズムをクラップしておく	授業を振り返り、基礎リズムの体験方法を考えてみる	14	連鎖リズムとカノン	課題のリズムをクラップ、ステップしておく	授業で取り上げた課題を確実にできるようにしておく		
	7	リズムパターン（リズム型）	物の名前を言いながらクラップしておく	授業で学んだリズムパターンをステップしておく	15	まとめ	実技試験の準備	実技試験の振り返り		
	8	リズムフレーズ（声とクラップ）	短文を言いながら区ラップしておく	リズムフレーズをリズム唱で唱えたりクラップする	備考 ※卒業要件として、音楽学科は選択、こども学科は必修					
教科書・テキスト等	基礎からわかるリトミック！リトミック！ 石丸 由理 著（ひかりのくに出版）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業 ヴァージニア・ホッジ・ミード著 神原雅之他 訳（ふくろう出版）			平常点	定期試験（実技試験）	40%	授業への積極的な取り組み、受講態度 リズムの正確さ			
						60%				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
リトミックⅡ	隈部 文	単独	1単位	音楽学科・こども学科 1年次	後期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
保育や幼児教育、学校教育などさまざまな現場で生かせるリトミック指導ができるようになる。動きのためのピアノが弾けるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	動きのための音楽① （ステップ）	夏休みの課題曲を弾いておく	授業で弾いた曲を練習しておく	9	指導案の組み立て	配布資料を読んでおく	指導案を考える		
	2	動きのための音楽② （動物・乗り物 他）	課題曲を弾いておく	授業で弾いた曲を練習しておく	10	ロールプレイ①	ロールプレイの準備をする	ロールプレイの良い点や改善点をまとめる		
	3	いろいろな表現① （ボディーパーカッション）	課題のリズムを叩いてくる	ボディーパーカッションの自分の曲を作る	11	ロールプレイ②	ロールプレイの準備をする	ロールプレイの良い点や改善点をまとめる		
	4	いろいろな表現② （身体表現を伴った言葉のアンサンブル）	課題のリズムを叩いてくる	言葉のアンサンブルの自分の曲を作る	12	音楽の視覚化①～プラスチックアニメ（曲の分析）	課題曲を聴いておく	インターネットでプラスチックアニメの動画を観る		
授業の概要	5	いろいろな表現③ （絵本に動きをつける）	グループで絵本を考え、内容を把握しておく	好きな絵本に音楽を付けてみる	13	音楽の視覚化②～プラスチックアニメ（曲を動く）	課題曲の音楽の要素の合う身体動きを考えておく	グループで作った動きを復習しておく		
リトミックⅠで体験したことを基盤として発展させ、保育や幼児教育、また学校教育の現場で生かせるリトミック指導法や、音楽と動きを関連付けた音楽教育としてのリトミックを習得する。	6	速さの違いを感じての動き	課題曲を聴いておく	授業を振り返り、自分なりのアプローチを考える	14	音楽の視覚化③～プラスチックアニメ（仮発表と検討）	自分の動きを確認する	授業で撮影した動画を観て客観的に振り返り、再考する		
	7	楽器の音色の違いを楽しみながらの動き	課題曲を聴いておく	いろいろな楽器の音楽を聴き、動きをイメージする	15	まとめ	実技試験の準備	これまでの授業内容と、実技試験の振り返り		
	8	3拍子を感じて「メヌエット」を味わう	課題曲を聴いておく	自分なりの3拍子のアプローチを考えてみる	備考 ※卒業要件として、音楽学科は選択、こども学科は必修					
教科書・テキスト等	基礎からわかるリトミック！リトミック！ 石丸 由理 著（ひかりのくに出版）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	リトミックでつくる楽しい音楽授業 井上 恵理・酒井 恵美子 共著（明治図書）、 ダルクローズ・アプローチによる子どものための			平常点	定期試験（実技試験）	40%	授業への積極的な取り組み、受講態度 音楽の捉え方、動きの工夫、全体の構成			
						60%				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1T56 音楽理論 I A	柏尾 剛徳	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修	必修		選択必修	ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽を専門的に勉強するにあたり、最も重要な「楽典（音楽理論）」を基礎から学ぶことができる。小中高と学んできた「音楽」の理解度の確認、そしてさらに詳しく理論的に学び、今後の音楽活動に実践していくことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（これから学ぶにあたっての心構え 他）	シラバスで内容を確認	確認と復習	9	演奏記号と用語①（速度記号・速度用語）	速度記号・速度用語について調べておく	授業後にその復習		
	2	音楽の三要素・譜表（rhythm, melody, harmony・五線と加線他）	事前に学修内容の部分を授業教科書で予習	授業後にその復習	10	演奏記号と用語②（Dynamikを示す記号と用語および曲想を示す用語）	各用語について調べておく	授業後にその復習		
	3	音名・音高標示・変化記号（ドイツ音名・日本音名・変化記号の効力等）	音名・音高標示・変化記号について調べておく	授業後にその復習	11	演奏記号と用語③（Agogikを指示する用語およびarticulationを示す用語その他）	各用語について調べておく	授業後にその復習		
	4	音符と休符（単純音符・付点音符・複付点音符・その記譜法等）	音符と休符について調べておく	授業後にその復習	12	音楽の形式（器楽曲の形式等）	音楽の形式について調べておく	授業後にその復習		
授業の概要	5	連符（連符とは・連符の変形・連符から単位音符を知る方法）	連符について調べておく	授業後にその復習	13	音程①（旋律音程と和声音程・度数・単音程と複音程・名称）	音程について調べておく	授業後にその復習		
音楽の基礎的学問である「楽典」を、現実の音楽と一体化したいという思いから作られた教材「楽典・音楽家を志す人のための」を主に使用し、演奏する際に必要な知識も含め、音楽表現に役立てていくことを目標とする。前期は音楽の発展過程と、演奏するにあたり必要な知識を得ることを主な内容とする。	6	小節と拍子とrhythm（強起・弱起・拍子の種類・syncopation他）	小節と拍子とrhythmについて調べておく	授業後にその復習	14	音程②（練習問題）	教科書の練習問題を解く	授業で配られた練習問題を復習		
	7	音の装飾と奏法（装飾音・装飾記号とその奏法）	音の装飾と奏法について調べておく	授業後にその復習	15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	授業後に復習		
	8	音型と反復とその略記法（メロディー的音型・ハーモニック的音程の反復と略記法等）	音型と反復とその略記法について調べておく	授業後にその復習						
教科書・テキスト等	楽典（音楽家を志す人のための）（音楽之友社）パーフェクト楽典 ハンドブック（ドレミ楽譜）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	パーフェクト楽典・問題集（ドレミ楽譜）			平常点 習熟度テスト 期末試験	30% 10% 60%	主に授業態度、積極的な姿勢等 理解度 筆記試験の点数				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1T56 音楽理論 I B	西林 博子	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修	必修		選択必修	ABC
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基礎からしっかりと理解し、これから専門的に学んでいく「音楽」の礎を築き、実践的に活かせるようにすること。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（これから学ぶにあたっての心構え 他）	シラバスで確認	確認と復習	9	音階③五度圏	五度圏について調べる	授業後に課題プリントを行い提出する		
	2	音楽の三要素・譜表（rhythm, melody, harmony・五線と加線他）	事前に学修内容の部分を授業教科書で予習	授業後に課題プリントを行い提出する	10	音階④近親調	近親調について調べる	授業後に課題プリントを行い提出する		
	3	音名・音高標示・変化記号（ドイツ音名・日本音名・変化記号の効力等）	音名・音高標示・変化記号について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する	11	演奏記号と用語①（速度記号・速度用語、Dynamikを示す記号と用語および曲想を示す用語）	各用語について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する		
	4	音符と休符（単純音符・付点音符・複付点音符・その記譜法等）	音符と休符について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する	12	演奏記号と用語②（Dynamik, Agogik, articulationを示す記号と用語および曲想を示す用語）	各用語について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する		
授業の概要	5	音階①（幹音どおしの音程）	音程について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する	13	まとめ①（音名、音程、音階）	音程について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する		
Bクラスは楽典を基礎から学びたい人や、ある程度知識があるが、より基礎から学びなおしたい人のためのクラスである。習熟度テストを導入し、理解力を確かめながら、楽典をより理論的に学んでいく。	6	音階②（旋律音程と和声音程・度数・単音程と複音程・名称）	音程について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する	14	まとめ②（音名、音程、音階）	教科書の練習問題を解く	授業後に課題プリントを行い提出する		
	7	音階①音階の成り立ち	音階について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する	15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	音楽理論Iのまとめ		
	8	音階②音階と調、調号	調号について調べる	授業後に課題プリントを行い提出する						
教科書・テキスト等	楽典（理論と実習）（音楽之友社）、プリント			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等				平常点 課題提出 期末テスト	10% 30% 60%	主に授業態度、積極的な姿勢等 事前学習後の定着度 筆記試験での点数				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1T57 音楽理論ⅡA	柏尾 剛徳	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修	必修		選択必修	ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽を専門的に勉強するにあたり、最も重要な「楽典（音楽理論）」を基礎から学ぶことができる。小中高と学んできた「音楽」の理解度の確認、そしてさらに詳しく理論的に学び、今後の音楽活動に実践していくことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音階と調①（長音階）	長音階について調べておく	授業後にその復習	9	音階と調⑨（旋律の調性判断における練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習		
	2	音階と調②（短音階）	短音階について調べておく	授業後にその復習	10	音階と調⑩（移調の方法）	移調について調べておく	授業後にその復習		
	3	音階と調③（①②の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習	11	音階と調⑪（移調の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習		
	4	音階と調④（全音階と半音階および民族的音階）	全音階と半音階および民族的音階について調べておく	授業後にその復習	12	和音①（和音の種類）	和音の種類について調べておく	授業後にその復習		
授業の概要	5	音階と調⑤（近視調と遠隔調）	近視調と遠隔調について調べておく	授業後にその復習	13	和音②（和音の転回等）	和音の転回について調べておく	授業後にその復習		
音楽の基礎的学問である「楽典」を、現実の音楽と一体化したいという思いから作られた教材「楽典・音楽家を志す人のための」を主に使用し、演奏する際に必要な知識も含め、音楽表現に役立てていくことを目標とする。後期は和声法や対位法などを理解する上で必要な、基礎的な音楽理論を中心とする。	6	音階と調⑥（⑤の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習	14	総復習（前期および後期で学修したこと）	今までやってきたことをまとめる	総復習で得たことを基に復習		
	7	音階と調⑦（旋律の調性判断の方法①）	旋律の調性判断について調べておく	授業後にその復習	15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	授業後に復習		
	8	音階と調⑧（旋律の調性判断の方法②）	調性判断の方法について調べておく	授業後にその復習						
教科書・テキスト等	楽典（音楽家を志す人のための）（音楽之友社）、パーフェクト楽典 ハンドブック（ドレミ楽譜）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	パーフェクト楽典・問題集（ドレミ楽譜）			平常点 課題／小テスト 期末試験	30% 10% 60%	主に授業態度、積極的な姿勢等 課題への取り組み、姿勢 筆記試験の点数・内容の理解度				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1T57 音楽理論ⅡB	西林 博子	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修	必修		選択必修	ABC
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基礎からしっかりと理解し、これから専門的に学んでいく「音楽」の礎を築き、実践的に活かせるようにすること。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音楽理論Ⅰの復習	音名、音程、音階、楽語を復習しておく	授業後に課題プリントを行い提出する。	9	調の判定④（転調を含む調性判断、移調の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後に課題プリントを行い提出する。		
	2	和音①（和音の種類）	和音の種類について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。	10	小節と拍子とrhythm（強起・弱起・拍子の種類・syncopation他）	小節と拍子とrhythmについて調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。		
	3	和音②（音階上の和音と転回、コードネームについて）	音階上の和音を弾いて確認しておく	授業後に課題プリントを行い提出する。	11	音型と反復とその略記法、演奏順について（メロディ的音型・ハーモニック音程の反復と略記法等）	音型と反復とその略記法について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。		
	4	移調①	移調について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。	12	様々な音階（教会旋法、全音階、半音階および民族的音階）	音階の種類について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。		
授業の概要	5	移調②（移調楽器）	移調楽器について調べておく	授業後に課題プリントを行い提出する。	13	総復習（前期および後期で学修したこと）	これまでの学修をまとめる	授業後に課題プリントを行い提出する。		
Bクラスは楽典を基礎から学びたい人や、ある程度知識があるが、より基礎から学びなおしたい人のためのクラスである。習熟度テストを導入し、理解力を確かめながら、楽典をより理論的に学んでいく。	6	調の判定①（旋律の調性判断の方法）	調の判定についてテキストで調べておく。	授業後に課題プリントを行い提出する。	14	総復習（前期および後期で学修したこと）	これまでの学修をまとめる	授業後に課題プリントを行い提出する。		
	7	調の判定②（調の判定と移調について）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後に課題プリントを行い提出する。	15	まとめ（総まとめ）	これまでの学修をまとめる	音楽理論Ⅰ、Ⅱのまとめ		
	8	調の判定③（調性判断、移調の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後に課題プリントを行い提出する。						
教科書・テキスト等	楽典（理論と実習）（音楽之友社）、プリント			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等				平常点 課題提出 期末テスト	10% 30% 60%	主に授業態度、積極的な姿勢等 事前学習後の定着度 筆記試験での点数				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M3C58 音楽史 I (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	木村 博子	単独	2単位	音楽学科 2年次	前期	選択	必修			ABC E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽の歴史をグローバルな観点から捉えることにより、幅広い教養を身につけることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス：なぜ音楽史を学ぶかー人間と音楽	自分と音楽の関係を振り返る。	教科書の第1部序章をまとめる。	9	日本音楽史（古代～平安時代） 古代から平安時代までの音楽の種類と歴史を理解する。	古代から平安時代までの文化を調べる。	教科書第2部第1章をまとめる。		
	2	西洋音楽史（古代ギリシア） 古代ギリシアにおける音楽の考え方を通して、西洋音楽に通底する特質について考える。	教科書の第1部第1章を読む。	ギリシア人にとって音楽とは何だったのかをまとめる。	10	日本音楽史（戦国・安土桃山時代） 能楽について学ぶ。	能『道成寺』を視聴する。	教科書第2部第2章をまとめる。		
	3	西洋音楽史（中世） キリスト教と音楽の関係、ポリフォニーの発展について理解する。	グレゴリオ聖歌とオルガスムを聴く。	教科書の第1部第2章をまとめる。	11	諸民族の音楽（概要） 世界の民族音楽を大陸別に概説する。	世界の地域と気候を予習する。	世界の音楽の概要をまとめる。		
	4	西洋音楽史（ルネサンス） フランドル楽派の音楽とイタリア・ルネサンス音楽について理解する。	イタリア・ルネサンス文化について調べる。	教科書の第1部第3章と第4章をまとめる。	12	諸民族の音楽（アジアの音楽①） 東アジアと東南アジアの音楽について学ぶ。	東アジア、東南アジアの文化について調べる。	同地域の音楽を視聴する。		
授業の概要	5	西洋音楽史（バロック①） オペラの創始と発展を理解する。	モンテヴェルディの『オルフェオ』を視聴する。	教科書の第1部第5章をまとめる。	13	諸民族の音楽（アジアの音楽②） 中央アジアと西アジアの音楽について学ぶ。	アラビア半島の歴史について調べる。	同地域の音楽を視聴する。		
西洋音楽史、日本音楽史、諸民族の音楽について取り上げる。西洋音楽史については、時代や文化についての理解も深めながら、バロック時代までの音楽的特徴を理解していく。日本音楽史については、安土・桃山時代までの特徴、代表的なジャンルについて理解する。さらに諸民族の音楽については全体を俯瞰した後、アジアの音楽について理解する。以上を視聴覚映像を多用しつつ、学生とのディスカッションを交えて進行させていく。	6	西洋音楽史（バロック②） バロックの楽器の発展について学ぶ。	バロックの楽器の種類について調べる。	教科書の第6章前半（pp.61～65）をまとめる。	14	まとめ①（西洋音楽と諸民族の音楽との関係） 18世紀までの西洋音楽と非西洋音楽との関係について考える。	西洋音楽と諸民族の音楽の違いについて考える。	西洋音楽における民族音楽の影響をまとめる。		
	7	西洋音楽史（バロック③） バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの音楽について学ぶ。	教科書の第6章後半（pp.65～68）を読む。	バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの作風をまとめる。	15	まとめ② 1～14回の授業の総括	これまでの授業内容の復習をする。	これまでの内容をレポートにまとめる。		
	8	日本音楽史（導入：日本文化と音楽） 日本文化の諸相を検討し、それと音楽との関係を考える。	「日本」とは何か考える。	日本固有の音の感性についてまとめる。						
教科書・テキスト等	『決定版 はじめての音楽史～古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』（音楽之友社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	『はじめての世界音楽～諸民族の伝統音楽からポップスまで』（音楽之友社）、『日本音楽との出会い～日本音楽の歴史と理論』（東京堂出版）、『音楽史を学ぶ～古代ギリシアから現代まで』（教育芸術社）			課題・レポート	30%	積極的な発言や質問、意欲 内容の理解、自分の考えや感じ方の表現方法				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M3C59 音楽史 II (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	木村 博子	単独	2単位	音楽学科 2年次	後期	選択	選択			ABC E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽の歴史をグローバルな観点から捉えることにより、幅広い教養を身につけることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	西洋音楽史（導入：近代市民社会と音楽） 前古典派の活動と古典派の特質を理解する。	前期の復習をする。	教科書の第1部第7章をまとめる。	9	日本音楽史（江戸時代） 歌舞伎と文楽について学ぶ。	歌舞伎『勘十郎』、文楽『平家女護島』を視聴する。	教科書第2部第3章をまとめる。		
	2	西洋音楽史（古典派①） ハイデン、モーツァルトの生涯と音楽について学ぶ。	教科書の第1部第8章を読む。	ハイデンとモーツァルトについてまとめる。	10	日本音楽史（近代） 明治以降の音楽について学ぶ。	明治以降の日本史を調べる。	教科書第2部第4章をまとめる。		
	3	西洋音楽史（古典派②） ベートーヴェンの生涯と音楽について学ぶ。	ベートーヴェンの交響曲第3、5、9番を聴く。	教科書の第1部第8章をまとめる。	11	日本音楽史（現代） 第2次大戦以降の音楽について学ぶ。	武満徹の音楽を聴く。	教科書第3部第1章、第2章をまとめる。		
授業の概要	4	西洋音楽史（ロマン主義前期） 19世紀の時代背景とロマン主義の音楽の特質、シューベルト、メンデルスゾーンの音楽について学ぶ。	シューベルトとメンデルスゾーンの曲を聴く。	教科書の第1部第9章をまとめる。	12	諸民族の音楽（アフリカの音楽） アフリカの音楽とジャズについて学ぶ。	アフリカの歴史について調べる。	ジャズの歴史をまとめる。		
この科目は、前期の「音楽史 I」の続編として、西洋音楽史、日本音楽史、諸民族の音楽について取り上げるものである。西洋音楽史については、時代や文化についての理解も深めながら、古典派から20世紀までの音楽的特徴を理解していく。日本音楽史については、江戸時代から20世紀までの特徴、代表的なジャンルについて理解する。さらに諸民族の音楽については、アフリカおよび南北アメリカの音楽について理解する。以上を視聴覚映像を多用しつつ、学生とのディスカッションを交えて進行させていく。	5	西洋音楽史（ロマン主義の諸相①） 19世紀のピアノ音楽について学ぶ。	ショパンとリストの曲を聴く。	ショパンとリストについてまとめる。	13	諸民族の音楽（南アメリカの音楽） 南アメリカの音楽について学ぶ。	南アメリカの歴史について調べる。	同地域の音楽を視聴する。		
	6	西洋音楽史（ロマン主義の諸相②） 後期ロマン主義の音楽について学ぶ。	ヴァグナーの楽劇論について調べる。	教科書の第1部第10章をまとめる。	14	まとめ①（西洋音楽と諸民族の音楽との関係） 20世紀までの西洋音楽と非西洋音楽との関係について考える。	西洋音楽と諸民族の音楽の違いについて考える。	現代の音楽における民族音楽の影響について考える。		
	7	西洋音楽史（20世紀の音楽①） 調性の崩壊と12音音楽について理解する。	19世紀末～20世紀前半の時代背景を調べる。	教科書の第1部第11章をまとめる。	15	まとめ② 1～14回の授業の総括	これまでの授業内容の復習をする。	これまでの内容をレポートにまとめる。		
	8	西洋音楽史（20世紀の音楽②） 第2次世界大戦後の音楽について学ぶ。	トータル・セリーと偶然性の音楽について調べる。	教科書の第1部第12章をまとめる。						
教科書・テキスト等	『決定版 はじめての音楽史～古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』（音楽之友社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	『はじめての世界音楽～諸民族の伝統音楽からポップスまで』（音楽之友社）、『日本音楽との出会い～日本音楽の歴史と理論』（東京堂出版）、『音楽史を学ぶ～古代ギリシアから現代まで』（教育芸術社）			課題・レポート	30%	積極的な発言や質問、意欲 内容の理解、自分の考えや感じ方の表現方法				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ソルフェージュ I A	隈部 文	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修	選択必修		選択必修	ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り、正確かつ音楽的に演奏できる力をはじめ、聴音、視唱、視奏を中心に音楽の基礎的なソルフェージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力をもつ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 学修内容の説明 課題の目標と取り組み方について	シラバスの熟読	課題の復習	9	和音（主要3和音、副3和音）／カデンツ（I-IV-V-I）	音階と和音を覚える。コードネームを覚える	課題復習・カデンツトレーニング		
	2	メロディー視唱（長音階と各種音程の練習）／コードネーム、カデンツの導入（I-V-I）	長音階の調号、構成音を確認する	課題復習・カデンツトレーニング	10	4声体課題（上3声密集）／カデンツ（I-IV-V-I）	音階と和音を覚える。コードネームを覚える	課題復習・カデンツトレーニング		
	3	メロディー視唱（短音階と各種音程の練習）／コードネーム、カデンツの導入（I-V-I）	短音階の調号、構成音を確認する	課題復習・カデンツトレーニング	11	弾き歌い（主要3和音）／カデンツ（I-IV-V-I）	曲に応じた和音付け（コード判定）	課題復習・カデンツトレーニング		
	4	メロディー視唱（2声、3声、カノン）／カデンツ（I-V-I）	課題のトレーニング	課題復習・カデンツトレーニング	12	弾き歌い（主要3和音、II ⁺ 、I ⁺ ）／カデンツ（I-II ⁺ -V-I）、（I-II ⁺ -I ⁺ -V7-I）	曲に応じた和音付け（コード判定）	課題復習・カデンツトレーニング		
	5	リズム練習（単純拍子、複合拍子、基礎練習）／カデンツ（I-V-I）全調①	課題のリズム練習	課題復習・カデンツトレーニング	13	旋律聴音（調の展開とリズムの細分化）／カデンツ（I-II ⁺ -V-I）、（I-II ⁺ -I ⁺ -V7-I）全調①	課題のトレーニング	課題復習・カデンツトレーニング		
	6	リズム練習（単純拍子、複合拍子、1声部、2声部課題）／カデンツ（I-V-I）全調②	課題のリズム練習	課題復習・カデンツトレーニング	14	旋律聴音（2声、大譜表課題）／カデンツ（I-II ⁺ -V-I）、（I-II ⁺ -I ⁺ -V7-I）全調②	課題のトレーニング	実技試験課題への取り組み		
	7	リズム練習（単純拍子、複合拍子、1声部、2声部課題）／カデンツ（I-V-I）全調③	課題のリズム練習	課題復習・カデンツトレーニング	15	ソルフェージュ I のまとめ	課題のトレーニング	資料のまとめ 筆記試験実技試験課題の復習		
8	和音（主要3和音）／カデンツ（I-IV-V-I）	音階と和音を覚える。コードネームを覚える	課題復習・カデンツトレーニング							
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2.ソルフェージュ(ヤマハ)を配布	適宜プリント	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				定期試験 平常点	70% 30%	実技（リズム打ち・視唱・弾き歌い）、筆記（聴感度、積極的な取り組み、発表				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1C19 ソルフェージュ I B	西林 博子	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修	選択必修		選択必修	BD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽の3要素（リズム・メロディー・ハーモニー）を豊かに感じ、聴く、読む、表現する、創る力を習得し、音楽基礎力を高めることを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 学修内容の説明。課題の目標と取り組み方について。	シラバスの熟読	課題の復習	9	視唱（5度音程）／リズム（拍の分割①）／聴音／弾き歌い（I-V-I）C:F:G:	テキストP.15～17、60～64の練習	課題復習・カデンツトレーニング		
	2	視唱（Cdur）／リズム（音符と拍子について）／聴音／記譜について	テキストP.8の練習	課題復習	10	視唱（6度音程）／リズム（拍の分割②）／聴音／カデンツ（I-IV-V-I）C:F:G:	テキストP.17～18の練習	課題復習・カデンツトレーニング		
	3	視唱（Fdur）／リズム（単純拍子①）／聴音／音階	テキストP.9の練習	課題復習	11	視唱（7・8度音程）／リズム（拍の分割②）／聴音／カデンツ（I-IV-V-I）C:F:G:	テキストP.18の練習	課題復習・カデンツトレーニング		
	4	視唱（Gdur）／リズム（単純拍子②）／聴音／コードネーム	テキストP.10の練習	課題復習	12	視唱（IとV ₇ による音程練習①）／リズム（2声①）／聴音／弾き歌い（I-IV-V-I）C:F:G:	テキストP.19、65～の練習	課題復習・カデンツトレーニング		
	5	視唱（Ddur）／リズム（単純拍子③）／聴音／主要3和音□	テキストP.11の練習	課題復習	13	視唱（IとV ₇ による音程練習②）／リズム（2声②）／聴音／弾き歌い（I-IV-V-I）C:F:G:	テキストP.20～21、65～の練習	課題復習・カデンツトレーニング		
	6	視唱（Bdur）／リズム（複合拍子①）／聴音／カデンツ（I-V-I）C:	テキストP.12の練習	課題復習・カデンツトレーニング	14	視唱（長調のまとめ）／リズム（2声③）／聴音／弾き歌い（I-IV-V-I）C:F:G:	課題のトレーニング	実技試験課題への取り組み		
	7	視唱（3度音程）／リズム（複合拍子②）／聴音／カデンツ（I-V-I）C:F:	テキストP.13の練習	課題復習・カデンツトレーニング	15	ソルフェージュ I のまとめ	課題のトレーニング	資料のまとめ 筆記試験実技試験課題の復習		
8	視唱（4度音程）／リズム（複合拍子③）／聴音／カデンツ（I-V-I）C:F:G:	テキストP.14～15の練習	課題復習・カデンツトレーニング	備考						
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2.ソルフェージュ(ヤマハ)		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				定期試験 平常点	60% 40%	実技（視唱・弾き歌い）、筆記（聴音） 積極的な取り組み、課題提出				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ソルフエージュⅡA	隈部 文	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修	選択必修		選択必修	ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り、正確かつ音楽的に演奏できる力をはじめ、聴音、視唱、視奏を中心に音楽の基礎的なソルフエージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力をもつ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ソルフエージュⅠの反省とⅡの課題・目標について	シラバスの熟読	課題の復習	9	4声体課題短調(開離、借用和音を含む) / メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング		4声体コーラルの演奏	
	2	メロディー視唱、移動ド唱法① / メロディーのコード判別、伴奏付け	課題の和音アナライズ	課題復習	10	旋律聴音(調の展開とリズムの細分化) / メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング		課題復習	
	3	メロディー視唱、移動ド唱法② / メロディーのコード判別、伴奏付け	課題の和音アナライズ	課題復習	11	旋律聴音(調の展開とリズムの細分化、転調)① / メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング		課題復習	
	4	メロディー視唱(2声、3声、カノン) / メロディーのコード判別、伴奏付け	課題の和音アナライズ	課題復習	12	旋律聴音(調の展開とリズムの細分化、転調)② / メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング		課題復習	
授業の概要										
音楽の基礎的なソルフエージュ能力を育成するために、聴音(単旋律、複旋律和声、リズム)、視唱(単旋律、2声、3声、カノン、伴奏付)、読譜(アルト譜表、移調楽器、スコア)をさまざまな携帯で学修する。コードネームを学修し、和音と和声の感覚を育て、伴奏付けを実習する。	5	読譜(アルト譜表)① / メロディーのコード判別、伴奏付け	アルト譜表の読譜練習	課題復習	13	旋律聴音(2声、大譜表課題) / 様々なコードによる伴奏付け	課題のトレーニング		課題復習	
	6	読譜(アルト譜表)② / メロディーのコード判別、伴奏付け	アルト譜表の読譜練習、課題のCD鑑賞	課題復習	14	旋律聴音(2声、大譜表課題) / 様々なコードによる伴奏付け	課題のトレーニング		実技試験課題への取り組み	
	7	読譜(移調楽器の記譜と実音)③ / メロディーのコード判別、伴奏付け	管弦楽スコアの読譜	課題復習	15	ソルフエージュⅡのまとめ	試験課題への取り組み		資料のまとめ・筆記試験実技試験課題の復習	
	8	4声体課題長調(開離、借用和音を含む) / メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング	4声体コーラルの演奏						
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2、ソルフエージュ(ヤマハ)を配布	適宜プリントを配布	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				定期試験 平常点	70% 30%	実技(リズム打ち・視唱・弾き歌い)、筆記(聴感度、積極的な取り組み、発表)				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M1C20 ソルフエージュⅡB	西林 博子	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修	選択必修		選択必修	BD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽の3要素(リズム・メロディー・ハーモニー)を豊かに感じ、聴く、読む、表現する、創る力を習得し、音楽基礎力を高めることを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ソルフエージュⅠの内容理解の確認	ソルフエージュⅠの復習	課題復習	9	視唱(休符) / リズム(アンサンブル) / 聴音 / カデンツ (I-IV-V-I) ・ 弾き歌い(短調)②	テキストP.30、69~72の練習		課題復習・カデンツトレーニング	
	2	視唱(臨時記号) / リズム(拍の内面化①) / 聴音 / 音階(短調)	テキストP.20~24の練習	課題復習	10	視唱(シンクベーション) / リズム(歌唱と拍手①) / 聴音 / カデンツ (I-IV-V-I) ・ 弾き歌い(短調)③	テキストP.31、69~72の練習		課題復習・カデンツトレーニング	
	3	視唱(臨時記号) / リズム(拍の内面化②) / 聴音 / カデンツ (I-V-I) a:	テキストP.20~24、60の練習	課題復習・カデンツトレーニング	11	視唱(連符) / リズム(連符) / 聴音 / カデンツ (I-IV-V-I) ・ 弾き歌い(短調)④	テキストP.32、69~72の練習		課題復習・カデンツトレーニング	
	4	視唱(a, d moll) / リズム(拍の内面化③) / 聴音 / カデンツ (I-V-I) d:	テキストP.25、60の練習	課題復習	12	視唱(複合拍子) / リズム(歌唱と拍手②) / 聴音 / 弾き歌い (I-IV-V-I) 長調・短調	テキストP.33、69~72の練習		課題復習・カデンツトレーニング	
授業の概要										
音楽の基礎的なソルフエージュ能力・記譜能力を育成するために、聴音(単旋律、和声、リズム)、視唱(単旋律、2声、カノン)、リズム(単純拍子、複合拍子)をさまざまな形態で経験する。音楽理論の学修内容をより音楽的に理解できるようにする。コードネーム、カデンツを学修し、ハーモニーとメロディーの関係を感じ、表現できる基礎を身に付ける。	5	視唱(e, g moll) / リズム(拍の内面化・2声①) / 聴音 / カデンツ (I-V-I) e:	テキストP.26、60の練習	課題復習	13	視唱(付点) / リズム(歌唱と拍手③) / 聴音 / 弾き歌い (I-IV-V-I) 長調・短調	テキストP.34、69~72の練習		課題復習・カデンツトレーニング	
	6	視唱(cmoll) / リズム(拍の内面化・2声②) / 聴音 / カデンツ (I-V-I) g:	テキストP.27、60の練習	課題復習・カデンツトレーニング	14	視唱(4分割・アーティキュレーション) / リズム(まとめ) / 聴音 / 弾き歌い (I-IV-V-I) 長調・短調	テキストP.35~36、69~72の練習		実技試験課題への取り組み	
	7	視唱(2分割) / リズム(拍の内面化・2声③) / 聴音 / カデンツ (I-V-I) e:	テキストP.28、60の練習	課題復習・カデンツトレーニング	15	ソルフエージュⅡのまとめ	課題のトレーニング		資料のまとめ・筆記試験実技試験課題の復習	
	8	視唱(タイ・アウフタクト) / リズム(拍の内面化・2声④)(アンサンブル) / 聴音 / カデンツ (I-IV-V-I) ・ 弾き歌い(短調)①	テキストP.29、69~72の練習	課題復習・カデンツトレーニング	備考					
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2、ソルフエージュ(ヤマハ)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				定期試験 平常点	60% 40%	実技(視唱・弾き歌い)、筆記(聴音) 積極的な取り組み、課題提出				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MA1M4N23 アートマネージメントⅠ	小西 たくま	単独	2単位	音楽学科 2年次	前期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
アートマネージメント活動として、自らコンサート等を企画立案し、上演を可能にする事。又、その検証ができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	アートマネージメント概論 広義的・狭義的な観点から必要性・捉え方・人材の資質・能力等を包括的に理解する	シラバスを熟読する。	社会における必要性を考える。	9	演出の役割と業務 演出の役割と業務について理解し、構成及びプログラム作成について学ぶ	過去の舞台体験から演出的要素を思い出す	自らの企画に必要な演出を再考する		
	2	ステージパフォーマンスを行うための制作業務と実際 アートマネージメントをステージパフォーマンスに特化して考える。	自ら行っているパフォーマンスについて考える。	様々なステージパフォーマンス上演チラシから情報取得	10	舞台監督の役割と業務 舞台監督の役割と業務について理解する(特に音楽、舞踏等専門性の必要性を知る)	舞台スタッフの組織を再学習する	音楽的舞台での舞台監督の重要性を再考する		
	3	制作業務①として企画立案のポイントを学び、企画コンセプト立案の重要性を知る	様々な公演から企画コンセプトを探る。	「企画する事」の社会的意味を考える	11	舞台の機構を知る 舞台機構の持つ役割と特性を学ぶ	舞台の設備でわからないものをチェックしておく	舞台に特化された専門用語を覚える		
	4	制作業務②として企画書作成(演目の選定及び構成)企画内容を作成する	自らがやりたいステージをイメージする	自らに合った企画の再検討をする	12	司会者および照明、音響、美術の役割と業務 それぞれの持つ役割と業務を学ぶ	過去の舞台でのそれぞれの役割を思い出す	自らの企画におけるベストな役割を再確認する		
授業の概要										
コンサートを含むイベントの企画立案を組み立てていくノウハウを取得する。公開上演に至る過程に必要な課題や役割を学ぶ。	5	企画に沿った劇場とは 劇場史と社会的役割～様々なホールの特長を知り、選び方を学ぶ～	過去の劇場体験を想起する	自らの企画に合ったホールを検討する	13	上演スケジュール作成 長期的、短期的、直前、リハーサル、本番のスケジュールの作成方法を学ぶ	日常生活の中でのスケジュール作成留意点を確認する	全てのスケジュールを実際に行う		
	6	スタッフの組織づくり 公演に必要なスタッフを組織として把握しその業務を認識する	舞台スタッフの必要性を考える	自らの企画に合ったスタッフを検討する	14	上演から制作業務終了まで 上演した作品及び制作業務をアートマネージメントの観点から検証することを学ぶ	今までの全体的流れを整理しておく	検証の重要性を確認する		
	7	プロデューサーの役割と業務 プロデューサーとしての資質、業務を企画から公演終了まで時系列に学ぶ	各業界のプロデューサーたる職分を考える	自らの企画に合ったスタッフを検討する	15	まとめとして、全般についての質疑応答 とレポート作成	質問事項を想起しておく	アートマネージメントの世界で自らの必要性を再考する		
	8	予算書作成 予算書作成の重要性と歳入・歳出項目を具体的に学ぶ	公演を上演するに必要な予算項目をイメージする	自立案した企画に必要な予算項目を挙げる。	備考	※サウンドデザインコース必修/ミュージックパフォーマンスコース必修				
教科書・テキスト等	適宜、プリント配付		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等			課題 / レポート	80%	企画・上演・検証する姿を把握する力、アートマネージメント活用への意欲					
			平常点(態度・行動観察)	20%	疑問点への取組、受講態度、課題への取組					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4N24 アートマネージメントⅡ	脇山 純	単独	2単位	音楽学科 2年次	後期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
・ICTを使い、情報を集め、まとめ、発表する能力を育てる。 ・過去の本学のコンサートの映像を見て、コンサートの仕組みを知ることができる。 ・コンサートを企画し、開催するための実務的能力を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	著作権とは インターネットで調べ学習 ミーキーマウスの著作権、著作権法	シラバスに目を通す	著作権に関するニュースなどに興味をもつ	9	コンサート企画、実務概要	コンサートを開くのに必要なものをまとめる	時系列を考えコンサートの企画を考える		
	2	音楽の著作権管理団体 JASRAC等	身近なアニメ、歌などの著作権について調べておく	JASRACについてしらべる	10	必要書類の書き方(1) コンサートホールの申し込みの手順など	熊本県立劇場の使用許可申請書をダウンロードしておく	使用許可申請書の記入 使用料の概算を出す		
	3	楽譜のコピーは許されるのか CARS	CARSのホームページを見て概要をつかんでおく	楽譜コピーについての意見をまとめる	11	必要書類の書き方(2) JASRAC提出書類、名義後援依頼等	演奏利用申込書、演奏利用明細書をダウンロード	書類の完成 使用料の概算を出す		
	4	著作権の制限 著作物の私的使用、学校現場での著作権	JASRACのホームページを見て概要をつかんでおく	学園祭で演奏する場合の著作権料について調べる	12	アートマネージメントの視点からの「華麗なる音楽の祭典」(1)(出演者として)	内容、進行思い出し記録	華麗なる音楽の祭典」の進行		
授業の概要										
音楽そのものではなく、音楽をめぐる周辺の学修を行う。 ・著作権について知る。 ・コンサートを支えるアートマネージメントの実務を体験する。 ・申請書等をダウンロードし記入するなどのコンピュータ・リテラシーも養うために、エクセル、ワード、PDFへの記入等を体験する。 ・インターネットで検索する。	5	同一性保持権 大地讃頌、おふくろさん	事件の概要を調べておく	事件の問題点をまとめる	13	アートマネージメントの視点からの「華麗なる音楽の祭典」(2)担当者表、進行表	「華麗なる音楽の祭典」の資料収集	舞台制作について考える		
	6	日本と海外 パブリックドメイン Youtube等	著作権が切れたらどうなるかを調べる	ネット上での著作権をまとめる	14	コンサートの企画・運営について	コンサート運営上の必要事項を確認、リストアップ	コンサート運営上の必要事項についてまとめる		
	7	違法ダウンロード 罰則(改正著作権法)	何が禁止されているかを調べる	日常の生活で著作権に関する事を見直す	15	アートマネージメントの意義 後期で扱った内容の復習 アートマネージメントの社会的役割	アートマネージメントのまとめ	アートマネージメントの社会的役割をまとめる		
	8	舞台専門用語について	舞台専門用語を調べる	舞台専門用語についてまとめる	備考	※サウンドデザインコース必修 ※ミュージックパフォーマンスコース必修				
教科書・テキスト等	担当教員が配付、指示する		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	図書館の関係蔵書		課題/レポート	80%	課題を授業中にまとめる(クラウドで保存)					
			平常点	20%	インターネットの検索と発表等					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MS1M1N35 ノーテーション (楽譜浄書)	脇山 純	複数	2 単位	音楽学科 2 年次	後期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
市販の楽譜やオリジナル作品を楽譜として入力できる力をつける。紙の楽譜ではできない編曲への応用ができるようになる。試験曲の楽譜提出に役立てる移調楽器でパート譜を作成できるようにする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
音楽を書くだけではなく、自分の音楽能力を伸ばすためのツールとして利用（聴音問題の作成、和声の音と音符での確認等）できるようにする。 楽譜としてのデータを多くの音楽アプリケーションで利用できるようになることを目標とする。	1	ノーテーションとは MuseScore でマウスによる音符の入力 調号、音部記号、拍子記号	シラバスを讀んでおく	PCにインストールして課題に取り組み	9	2 声のドラム譜 ドラム特有の符頭	バンド譜などでドラムパートのある楽譜の準備	授業での入力の復習		
	2	前回の復習 MIDI キーボードからの音符の入力 装飾音符	簡単なピアノ譜を準備	課題の復習	10	ギターについて TAB譜面	バンド譜などでギターパートのある楽譜の準備	授業での入力の復習		
	3	前回の復習 パソコンのキーボードからの音符の入力	ピアノ譜作成に取り組み	課題の復習	11	オーケストラスコア 移調楽器の説明 木管楽器、金管楽器 各国の楽器名について	オーケストラスコアの準備	レイアウトを意識した楽譜の作成		
	4	ラインの入力 スラー、クレッシェンド ペダル等	音符以外の情報を書き込む	課題の復習	12	楽譜の見た目 (レイアウト) 別のアプリケーションでデータを共有 (WAVE, MIDI, PDF で保存)	見た目のきれいな楽譜に編集	課題の復習		
授業の概要	5	テキストの入力 タイトル、作詞、作曲 歌詞、コードネーム	歌詞、コードネーム入りの楽譜の準備	課題の復習	13	Sibelius MuseScore に似た有料アプリケーション、さらに便利な機能	違うアプリケーションに慣れる	課題の復習		
音楽の記録として長年使用されてきた共通言語の「楽譜」をパソコンを使用し、きれいに正確に書いて、印刷する。 様々な楽器、音楽スタイルに合わせた楽譜を作成する。	6	ピアノ大譜表 持ってきたピアノ譜の入力	入力のためのピアノ譜面の準備	課題の復習	14	前回の復習 MIDI キーボードからの音符の入力 装飾音符	違うアプリケーションに慣れる	課題の復習		
	7	ピアノ譜独特の記譜 譜表をまたぐ音符等	ピアノ譜に取り組み	課題の復習	15	Finale UI (ユーザーインターフェイス) の異なるアプリケーション	違うアプリケーションに慣れる	課題の仕上げ、提出		
	8	2 声、3 声	2 声、3 声のピアノ譜を準備	課題の復習	備考 ※サウンドデザインコース必修 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	ノーテーションソフトのマニュアル、担当教員が配付			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				標準	課題楽譜提出 課題/楽譜 平常点 (態度) 演奏活動	80% 10% 10%	課題曲、自由曲の楽譜 課題を習得・練習 授業中の指示に対する正しい操作、質問など			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4N27 メディアデザイン I	浅川 浩二	単独	2 単位	音楽学科 2 年次	前期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
インターネットの台頭と共にその表現のメソッドが広がり、単純に演奏力だけでは、十分な訴求力をもった活動が難しい時代となりました。ネットメディアは全ての表現者にとって先ず基礎的知識として習得すべきものになったとも言え、これらの知識を体験を通じて習得することを目的とします。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	インターネット・プロモーションの現在 ネット上のアーティストのプロモーション例	ネットによるアーティストサイト閲覧	事例等確認	9	My Space 等 SNS への登録 My Space 等音楽 SNS の運用	My Spce の確認	設置サイトの確認と修正		
	2	インターネット・プロモーションの現在 ネット上のアーティストのプロモーション例	ミュージシャンサイトの閲覧と要点の把握	ミュージシャンサイトの再確認	10	音響特性について 音響上の特性等講義	ウェブ上で扱う音楽ファイルフォーマットについて	サウンドエディットソフトによる確認		
	3	バーチャル・ミュージシャン 各自のコンセプトに基づいた仮想アーティスト	コンセプトの構成を練る	コンセプトの再確認と修正	11	オリジナルホームページ作成 1 Wix を利用したオリジナルウェブの制作	Wix の仕様の確認	仕様の確認と修正		
授業の概要	4	ロゴマーク作成 グラフィックソフトによる制作	ミュージシャンのロゴなどの確認	グラフィックソフトの使い方の復習	12	オリジナルホームページ作成 2 Wix を利用したオリジナルウェブの制作	制作サイトの管理確認	サイト内容における確認と修正		
インターネットを総合的表現媒体として捉え、セルフプロモート能力の向上を目指し、SNS、ウェブサイト、クラウド技術などを習得し、マルチメディア表現力の向上を図る。	5	パンナー制作 グラフィックソフトによる制作	グラフィックソフトの利用法の確認	グラフィックソフトの使い方の復習	13	ウェブパブリッシングの実情と実践 1 ウェブプロモーションの実体講義	ネット上のプロモーション確認	実践後の確認		
	6	ブログ制作1 ブログ設置及び運用	ミュージシャンブログの閲覧	ブログの管理などの復習	14	ウェブパブリッシングの実情と実践 2 ウェブプロモーションの実体講義	ネット上のプロモーション確認 2	実践後の修正		
	7	ブログ制作2 ブログ設置及び運用	修正点などのアイデアの確認	ブログ内容の修正	15	全体のまとめと修正	既習内容の確認	既習内容の実践		
	8	Facebook プロモーション FB の仕組みと設置等	Facebook サイトの確認	設置サイトの確認と修正	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	はじめのビデオ編集 : Windows7 & ムービーメーカー対応版 [単行本]			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				標準	課題/レポート 平常点 期末試験	50% 30% 20%	制作レポート ブログ及びブログ等制作物 課題提出 出席率及び授業態度 制作物ウェブ サイト等最終制作物提出			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC1M4N28 メディアデザインII	浅川 浩二	単独	2単位	音楽学科 2年次	後期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
現代のクリエイターにとって音楽と映像は切っても切れないコンテンツとなりつつある。これは表現媒体の違いではあるが音楽家という枠を越えてクリエイターとしての表現力をつけるために必須のテーマとして捉えることが出来る。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	映像制作の基礎知識1 映画等作品における監督の役割など	映画等作品鑑賞 時コマ割りなどを意識する	映像におけるコンセプトなどの確認	9	写真加工の基礎と実践2 写真加工実践	写真加工サイトのリサーチ及び登録	加工サイトにおける実験		
	2	映像制作の基礎知識2 プロモーションビデオなど制作過程	映像のコンセプトなどを意識して鑑賞	多種多様なプロモビデオの鑑賞	10	動画撮影の基礎知識 動画撮影時における基礎知識	動画カメラについての予習	動画カメラの利用における要点の復習		
	3	映像制作における撮影技術の基礎知識1 映像用カメラの説明と使用	カメラの基礎的知識の予習	スマートホンでの撮影などへの応用	11	動画撮影の実践1 動画撮影	動画撮影の基礎知識の予習	所有カメラでの実験等		
	4	映像制作における撮影技術の基礎知識2 撮影時レイアウトや露出などの講義	カメラの機能の予習	スマートホン等での実践実験	12	動画撮影の実践2 動画撮影	ビデオカメラについての知識の修練	所有カメラでの実験等		
	5	Youtube登録実験 ムービー登録作業	Youtubeアカウントの作成等	アカウントの確認	13	動画編集1 動画編集の基礎的演習	編集ソフトに関する予習	所有ソフト等での実験		
	6	写真撮影の基礎と実践1 写真の基礎的知識の講義	デジタルカメラの基礎的知識の予習	所有カメラでの実験等	14	動画編集2 動画編集	用語関連の予習	所有ソフト等での実験		
	7	写真撮影の基礎と実践2 写真のフレーミングや露出関連講義	フレーミングなどの予習	所有カメラでの実験等	15	まとめ 全体のまとめと修正	既習内容の確認	既習内容の実践		
8	写真加工の基礎と実践1 写真と映像の加工についての講義	写真加工サイトのリサーチ	加工サイトにおける実験	備考 ※サウンドデザインコース必修						
教科書・テキスト等	はじめのビデオ編集：Windows7 & ムービー、メーカー対応版 [単行本]			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題/レポート	50%	制作レポート プログ及びロゴ等制作物			
					平常点	30%	課題提出 出席率及び授業態度			
					期末試験	20%	制作物ウェブ・サイト等最終制作物提出			